

お互いの不注意で重大死亡事故が続発

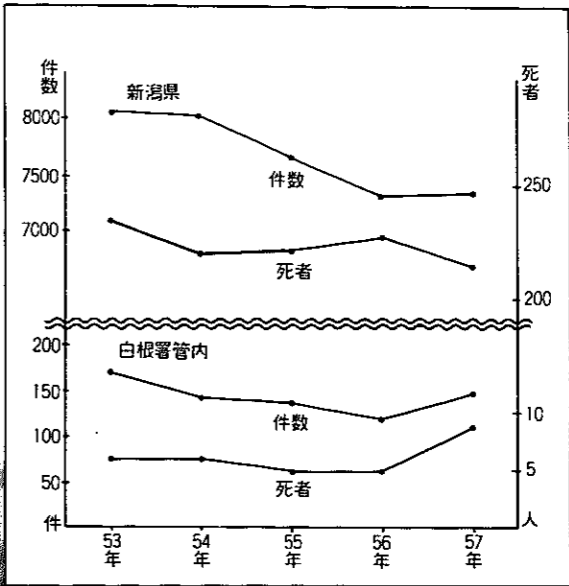
件数死者とも大幅に増加

昨年一年間の白根警察署管内（白根市、味方村、月潟村）で起きた、交通事故の状況がまとまりました。発生件数が百五十件（前年百二十件）、死者九人（同五人）、負傷者百八十人（同百三十九人）と、いずれも前年を大きく上回る結果となりました。

上半期（二月～六月）は、発生件数四十八件、死者三人で前年とほぼ同じ傾向だったのが、八月から急激に増えはじめ、下半期（七月～十二月）で百二件の事故を記録しました。また、重大事故による死者も、十月中旬から十二月中旬までの間に、前年の総数五人を超える六人を数えました。

広がる交通戦争

こうした事故の発生場所を道路別で見ると、国道が四十三件、県道が四十六件、市・村道が六十一件となっています。これまで一番多かった国道での事故が少なく



り、逆に少なかった県道や市・村道での事故が年々増えてきました。これは、交通戦争の広範囲化を示しています。

しかし、九人が亡くなった重大事故では、このうち六人が国道八号線で尊い生命を失っています。事故発生件数に対する死亡率では、いぜんとして国道が一番高くなっています。また、事故の発生を時間帯でみ



雪道を安全に走ろう

冬の道路、特に雪道や凍った道路での急ブレーキ、急ハンドル、スピードの出しすぎは危険このうえありません。この時期はウィンタースポーツの季節でもあり、マイカーで出かける人も多くなりますが、雪道や凍結路での運転を誤ると、思わぬ事故を引き起こします。冬の道路の運転は、十分気をつけましょう。

雪道（凍結路）での急ハンドル、急ブレーキは禁物

雪道や凍結路では、スノータイヤ、チェーンを装着しているから大丈夫と、過信するのは危険です。スピードを出しすぎたり、急ハンドルや急ブレーキをかけたは、スノータイヤやチェーンなどの装着効果も通用しなくな

ドの出し過ぎなど車側の違反によるものが多く起きています。しかし、飛び出しや自転車での斜め横断など、歩行者や自転車乗りの「交通弱者」側の責任度合いの重い例が増加したのも昨年の特徴です。

こうしたことから、取り締まりの強化はもちろんのこと、交通安全教育を、より徹底することも必要です。市や警察でも、関係機関と連携し、交通安全教育を一段と広範囲に実施していきます。

しかし、なんといっても一人ひとりが、交通安全の意識を高めることが大切ではないでしょうか。もし交通事故に巻き込まれたら、加害者側も被害者側も、幸福な家庭生活が一瞬にして崩壊することになりかねないのですから……。



保育園児とお母さんを対象にした親子交通安全教室などのほか、毎年、小・中学生を対象に自転車教室も開かれています。これからは、自転車の正しい乗り方だけでなく、総合的な交通安全教育を、広範囲に実施していきます。

婦人自転車教室

親子交通安全教室

交通ルール・マナーをよく知って欲しい

白根警察署 福島基男交通課長



講習会などに行くと、白根市は大変に危険な地域だと、いつも言っています。昨年は管内全体で九人が死亡、うち八人までが白根市内で亡くなっているわけですから、それに、事故発生件数に対する死亡率も、県平均に比べるとだいぶ高くなっています。それだけに、運転者、歩行者とも十分に交通ル

ール・マナーを知ってほしいわけですね。

子供の事故や、お年寄りの自転車乗りの事故が多かったのも昨年の特徴です。子供には、特にお母さんが交通ルールをよく教えて欲しいですね。お年寄りは、なるべく夜間の外出を控えたり、危険な所には行かないようお願いいたします。

交通事故をなくすには、一人ひとりが常に交通安全に対する意識をもつことが大切ですね。

白根地区安全運転管理者協会が交通安全功労で表彰

白根警察署管内にある事業所の安全運転管理が良く、長年にわたり事故が少なかったことから、このほど白根地区安全運転管理者協会（白井辰男会長）が、全日本交通安全協会長から表彰されました。なお、この表彰は県内では初めてのことで

シートベルトを必ずしよう

雪道では、いつ、どんなことが起こるかわかりません。シートベルトを締めて、不慮の事故から身を守りましょう。

インタビュー